

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	ピアノ表現3	
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	演習		
教科書/教材	毎回レジュメ・目標を配布する。楽譜：「バイエル」、「ポケットいっぱいのおた」				
担当教員情報					
担当教員	中川 知子	実務経験の有無・職種	有・音楽教員		
学習目的					
音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現の各領域を横断した「表現」に関する知識や保育技術の習得を目的としている。学生が幼児教育とは何なのかを考察し、幼児教育の中の「ピアノ表現」の位置づけを理解できるようになるために、主にピアノを使用し、幼児教育の重要性を理解し、幼児に対する情操教育の重要性を学ぶことを目的としている。「ピアノ表現1、2」の基礎に基づき、実習での成果を上げるために、連弾などバリエーション豊かにピアノ演奏できることをこの授業での目標としている。					
到達目標					
日々活動している社会の中で自分を位置付けることを目標としている。ピアノだから表現できることや、幼児教育の更なる重要性を考えながら、ピアノ技術の応用を身につけることが目標である。また、幼児教育についてや保育内容について理解し、ピアノを使った弾き歌いによるピアノと歌との表現方法、保育内で必要な弾き歌いの知識をも合わせて習得することを目標とし、実習実施時のピアノ弾き歌い対応授業として、想定される季節の歌や課題とされる幼児の歌の実践を行うことが目標とする。					
教育方法等					
授業概要	「ピアノ表現1、2」に引き続き、ピアノを弾くための基礎を復習しながらピアノ奏法を学び、更に弾き歌いや伴奏法への応用力を身につける。また、実習に向けて保育現場で使用される曲を絞り込み、更に実用可能なレベルを確実にする。実技習得は、各自の習得度に合わせて個人的に指導を行う。弾き歌いに関しては「ポケットいっぱいのおた」を使用し、伴奏をメロディーに合わせたコードを選択しながら歌う方法で弾き歌いを演習する。2人で弾く連弾にもチャレンジするなど、実習で想定される曲を楽しみながら実践を繰り返す。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を基に、ピアノに真摯に向きあう。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。楽譜を忘れたものは授業は受けられない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	課題	30%	毎回提示する課題についての仕上がり度を評価する		
	平常点	30%	ピアノに向き合う姿勢、授業態度について評価する		
	試験	40%	試験における課題曲の完成度を評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	実習に向けた弾き歌い演習の実践①	実習で予想される曲を考察し実践する①			
2回	実習に向けた弾き歌い演習の実践②	実習で予想される曲を考察し実践する②			
3回	イベントに向けた弾き歌い実践①	季節に行われる日本古来の行事に合わせた弾き歌いの必要性について理解する			
4回	イベントに向けた弾き歌い実践②	季節に行われる日本古来の行事に合わせた弾き歌いの必要性について理解し実践する			
5回	ピアノの音の表現についての考察①	ピアノの歴史と、音が鳴る原理について理解し、様々な表現を理解し実践する①			
6回	ピアノの音の表現についての考察②	ピアノの歴史と、音が鳴る原理について理解し、様々な表現を理解し実践する②			
7回	ピアノで擬態表現の実践①	ピアノを使って、動物の鳴き声などの表現について考察し実践する①			
8回	ピアノで擬態表現の実践②	ピアノを使って、動物の鳴き声などの表現について考察し実践する②			
9回	連弾とは何かについての考察①	連弾にチャレンジすることで、表現の幅を広げることを理解する①			
10回	連弾とは何かについての考察②	連弾にチャレンジすることで、表現の幅を広げることを理解する②			
11回	連弾とは何かについての考察③	連弾にチャレンジすることで、表現と楽しさを幼児に与えることを理解する①			
12回	連弾とは何かについての考察④	連弾にチャレンジすることで、表現と楽しさを幼児に与えることを理解する②			
13回	連弾とは何かについての考察⑤	連弾することでどんなことが得られるかの考察と理解			
14回	発表曲の決定とリハーサル	授業の内容を受けて、試験曲を自分で決定し実践する			
15回	発表(試験)	発表(試験)			